

緑の風 FAX版

NO. 2

2014年6月19日

JR東労組
本部情宣部

たしろかおる参議院議員
国土交通委員会で

通算
40回目

安全第一！現場第一！の

教育・訓練の重要性を強く訴える！！



本日、たしろかおる参議院議員が国土交通委員会において、JR北海道に関する質問を行いました。

質問に先立ち石原環境大臣の“金目”発言に対して、「許されない発言であり、自らの進退を考えてもらいたい。」ということ、また集団的自衛権の行使容認について、「戦争をしない国としての信頼を根底から覆すものであり、国際的立場を壊そうとしていることを自覚すべき。絶対に反対する。」との見解を表明しました。

一般質疑でたしろ議員はまず、JR北海道の労使で議論してきた結果、減速運転や減便などのダイヤ改変の成果について質問し、国交省は、「前年同期と比較して故障の件数が半分近く減少していることは成果として現れている」と評価しました。

『現場の声』の重要性について、6月16日付けの交通新聞に掲載されたJR北海道・須田会長の「現場とのキャッチボールをしていればトラブル前に直すこともできたはず。現場の声を聞くことは大事。」を引用し、鉄道は現場社員の力で動いており、現場の声を聞くことの重要性について国交省の認識を問いました。太田国土交通大臣は、安全の徹底は技術を体で覚えることと同等に重要であるという認識を示し、JR北海道経営陣の姿勢を評価するとともに引き続き緊張感を持って取り組むと述べました。

また、教育・訓練についても「現場社員は前向きに仕事に取り組む。しかしトレーニングがされていない。」というJR北海道の現実を踏まえ、JR北海道以外のJR各社にも共通している課題であり、教育・訓練がコストや時間がかかるために軽視されているのではないかと指摘し、安全確保のための投資として位置付けることを国交省に強く要請しました。国交省も、教育・訓練は時間もコストもかかるが、充実を図ることが重要であるためJR各社に徹底すると述べました。

たしろかおる参議院議員とともに
安全な鉄道をつくっていきましょう！

参議院国会中継で見ることができます。